

## テーマ 「自然災害を抑える森林施策に期待」

神奈川県西部に位置する酒匂川は、氾濫の歴史を繰り返してきました。私の記憶の一つには、昭和47年7月の豪雨、近年では平成22年9月の台風9号による氾濫ですが、枚挙に暇がありません。

この酒匂川の上流の主流は、静岡県側からの鮎沢と丹沢湖を抱える河内川です。

これらの流域は、富士山・西丹沢山塊・箱根外輪山に囲まれ、駿河湾からの雨雲が流れ込み、100mm/時を超える豪雨をもたらす地形です。

また、川幅の狭い急峻な河川形態ですが、その割には集水面積が大きく、都市化が進み、東名道路・新東名道路等の拡充で、保水力の低下が余儀なくされ、しばしば、洪水の危機にさらされています。

洪水時には、土石や流木が其々の道路を繋ぐ橋脚や橋桁に絡み、川の水を塞ぐ形となり、被害を拡大しています。

流木の多くは昭和30年以降に植えられた杉やヒノキ類の人工林が土砂もろとも川に押し出されたものです。

また、これらの土砂は、凡そ300年前に起きた富士山の大噴火時の火山灰で、1m以上の堆積はざらにあり、6mにも及ぶところがあり、私も現地視察をしたこともあります。

現地では、この火山灰をスコリアと称していました。

河川に流出した土砂は、河川の所々に形成される淵に堆積し河床を押し上げ、川辺の住居を脅かし、田畑を押し流しています。

このような特質的な不安定な環境の中で形成される酒匂川ですが、流域住民にとっては、過去・現代・未来とつなぐ母なる川でもあります。

こうしたことを考える中で、安定的な河川にしていくために、唯一期待されるのがスコリアによる山崩れを抑え、保水力を高める森林事業に取り組んで頂くしか道がないように思います。

この地域には、国有林のみならず、県・民間の森林もありますが、まず、国がスコリア対応の施策を示し、広く、県・森林組合とも連携を取り、流域住民にも安心感を与えていただけないのでしょうか。

以上